令和7年度 第３回野洲市図書館協議会 議事録

◎開催日時 令和８年（2026 年）3月 21 日（土）午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
◎開催場所 野洲図書館 本館 会議室
◎出席者　図書館協議会委員 ６名、事務局 2名 （ 図書館長、係長※兼書記 ）
※委員 4名欠席 （傍聴者なし）

館長　ただいまより令和7年度第3回図書館協議会を開催する。
本日、10 名の委員のうち過半数の６名の出席があるため、野洲市図書館管理運営規則 第９条第２項の規定により、本日の協議会が成立していることを報告する。
なお、この会議は公開を行うものであり、議事録は後日図書館のホームページに掲載されるむね了承いただきたい。
それでは、これより議事に移る。進行は早川会長よりお願いする。

会長　それでは 第３回目の協議会を始める。
①「月毎の貸出状況」について、館長より説明をお願いする。
館長　月毎貸出状況について、資料①よりご説明する。
現状貸出冊数も人数も前年より数字上は伸びているが、昨年11月一ヶ月の休館があっての数字となるので、決して芳しくはない。他図書館も若干の減少傾向と聞いている。当館も大きな流れとしては減少傾向が続いている。一番の要因としては、来館者がまず手に取りたいと思える新しい本が少なくなっていること。もちろんライフスタイルの変化等もあるが、図書館としては新しい本を十分提供できなかったことが大きい。特集設置等にて努力はしたが足りなかったと考える。
貸出のべ人数の推移も千ほど延べ人数が減っている。細かいところでは、例えば7月は貸出人数が増えているが冊数は減っているなど、夏休みで来館は増えたが借りている冊数は減っているということ。夏場は涼みにきているという点もあるが、気候がよくなると来館は減ることを実感している。そういった傾向が続いている。
また、統計については3月末で締めて、改めてとりまとめて発表する予定。
委員　一人当たりの貸出冊数について、人数はそんなに減ってないかと思ったが、令和元年は 4.27、令和 6 は 3.98、令和 7 は 3.86 となる。全体としては期待値に比して減っていっているのかと思う。
館長　子どもの数も減っている。絵本の大量借りも減っている。この現状でこのあたりの縮小となってしまうのか。あくまで我々の分析だが。
会長　来館して思うのが、人が明らかに減ってきている。
委員　機械的なカウンターはあるか。
館長　壊れている。
委員　図書館館内への来客はどうなのか。貸館利用者を引き込みたいが。
館長　やはりあまり図書館側へは入ってこない。

委員　一人 3.8 は、やはり貸出一人当たりの冊数としては少ない

委員　確かに借りる冊数は少なくなっている。棚の並びが変わっていない。

館長　6500 冊くらいの新規購入本はあるが、棚総数が13万冊と思うと、更新は 1 割に満たない。刷新できでいない。

会長　13 万冊を年 6000 冊で入れ替えるとすると、20年くらいでやっと全体を更新できる。東京のあるところでは、7年くらいで全て入れ替わっていると聞いた。確かにそれくらいのかたちが望ましい。

委員　他のところでは、やはり一人当たり 4.5 冊くらいいっているのか。

委員　多くの図書館の平均的貸出は、だいたい5冊くらいに収斂される。図書館の貸出冊数が 5 冊から 10 冊に設定されることが多いのは、そうした合理的根拠がある。

会長　貸出一人当たりの貸出冊数が少ないことは、予算との関係性があるといえる。こうした実態を訴えていくべき。

委員　真新しさがないというのは影響している。上の人にも知ってもらう必要がある。

館長　予算削減のため、どういった影響がでているかという説明もしている。このままでは利用されなくなるとも言っているが、全体の予算として取りまとめていくと、このようなかたちにおとされてしまう。

この流れで予算の話を先にさせていただく。

館長　資料 3 より予算について説明させていただく。

令和 8 年度予算では、昨年度より総額では 300 万以上増えたことになっているが、内訳としては移動図書館車についての予算で 1400 冊分程度の予算を計上しているため、一般的な資料購入費としては、514,000 円の増額しかなかったということ。

この増額は物価の上昇分。購入できる冊数としては、おそらく本年度と変わらない。

しかも、予算編成時には想定していなかった今般の世界情勢を思うと、材料費、運送費など、さまざまなコストが想定よりも上がる可能性がある。おそらく1冊の単価の上昇率は当初想定よりも上がってくるのではないか。その部分については、移動図書館用の費用をクッションとして利用しながら、移動図書館の方には既存資料も活用してやりくりしていこうと考えている。 その他、大きなところでは受変電設備の更新工事のための設計業務。受変電設備が既に二十数年経過しているため更新しなくてはならない。そのための前段階としての設計となる。また、進相コンデンサ更新と低濃度PCB運搬について。本年、当館で使用している進相コンデンサ（ニチコン製）に、わずかながら低濃度PCBが混入する可能性が明らかになったため、混入の有無の検査と、これに伴う機器の更新を行う。移動図書館については後ほど説明する。ブックスタートは、子どもの減少分だけ予算が減っているが、実質は例年通りで問題ない。

会長　予算について何か質問等はあるか。

館長　まだ県内の予算の状況はまとまっていないと思うが、当方で周囲に聞いて見たところ、あまり芳しくないと聞いている。どこも厳しい。

会長　継続して予算獲得にはつとめてほしい。主要な市内本屋が閉店したので、ちょっとした散策気分で気になる本を手に取れる場所はもう図書館しかない。

館長　紙の本を手に取れるところは図書館のみになってきている。書店の閉店は本当に残念。

会長　では、次に②の事業方針の説明をお願いする。

館長　事業方針について資料②より説明。

図書館の年度方針としては昨年度とさして変わらないが、大きなトピックとしては、移動図書館だけでなく図書館システムの更新がある。近江自治体クラウド協議会として、近隣自治体と協力して選定を行っているため、当館のみの希望や判断での選定はできない。プロポーザルをかけた結果、これまでと同じNECの次のバージョンを使用することになった。基本今までと同じで若干の変更があるか、というものになる。新規機能としては、LINE を使っての図書館資料検索やお知らせ機能を追加できないかと思い進めている。東近江、草津などはアプリを開発してそこから配信などを行うやり方をとっているが、費用がかかる。LINEについては若い世代がほぼ使用しているアプリなので、若い世代への情報提供や利便性の向上という面で役立つのではないか。野洲市5万人のなかでどれだけ登録してもらえるかはわからないが、少しでもチャンネルをひろげていくことは時代の要請から必要であり、こうした機能の提供を考えている。

来年度は学校司書がもう1名追加。これで2名。まだ足りないが、すこしずつ実績をあげていく。学務課は2校1名を将来的に考えているが、本来は1校1名が望ましい。図書館としては、実績を積み上げていくほかないかと考えている。現行の小学校2校にあと2校。合わせて4校について、それぞれ学校司書が週2回行く。配置がない学校も週一で巡回を考えている。学校司書は図書室の運営だけでなく授業にしっかり食い込んでいくのも必要。そのためには司書のスキルアップも必要。図書館から、そうした方面での支援をしていく方向で考えている。事業計画の項目は図書館として基本的な仕事としてあげさせていただいている。

先般野洲高校と野洲市が連携をすすめていくという協定が結ばれた。図書館もYAサービスのなかで連携できたらと考えている。

今後の予定としては、移動図書館などのほかに基本方針の策定など。方針は、進めていくつもりでいるが、市全体の計画の中でどう組み込むかが難しいところ。総合計画があって野洲市教育振興基本計画があり、その下に方針として入れるのが果たして適切なのか、教育委員会で相談調整しつつ、進め方を模索しながら行うことになる。場合によっては延期もありうるが、また改めてご報告したいと思う。進めるとなれば、素案等の協議を協議会にお願いしたいので、またお力添えをいただきたい。

会長　蔵書点検は5月下旬か。

館長　まだ確定していない。システム入替のタイミングでの蔵書点検を考えている。8つの市町がクラウド協議会に入っており、それぞれ時期をずらしながら現行の契約上9月までにシステム更新作業を行う。野洲図書館としては5月を希望しているが、どうなるかは不明。

会長　蔵書点検期間はシステム更新と関連しているということでよいか。なお、現システムについて要望等は言ってもいいのか。

館長　要望はなんでも言ってもらってよい。応えられるかはわからないが。

委員　システムの問題点をきちんと検証、解決、あるいは整理できているのか。予算的なものももちろんあると思うが、今回もまた同業者の更新でよいのかという点。差し支えない範囲でお答えいただきたい。

館長　作業効率について、機能面にやや問題があると思っている。ただ、日常業務として使えないものではない。実用には十分耐えうるもの。もう1社の方が個人的には作業はしやすいと思ったが、データの持ち方が違うため、データ移行の際に細かいところでうまくいかない場合がある。その点、現場としては、システム業者が代わるというのは大きな負荷。各自治体で、そうしたことも含め全体を検証した結果、もう少し現業者でよいという結論になった。

委員　現システムへの不安は、数年使ってみて払拭できたのか。

館長　慣れの問題もある。新システムになると、マニュアルもシステムに合わせて見直すことが必要になるため、当

面は致し方ないかと思っている。ただ、現業者について、当方の要望がすぐ改善にいたらないことが多い。今後はもう少し強く言っていきたい。他社はレスポンスが早いと聞いている。

委員　検索について、現在のシステムはかなりきちんと文言を入れないとヒット率が低い。タイトルの一部などでもたくさんヒットしてほしい。

会長　図書館システムとしては検索が命。検索が弱いのはあまりよくない。

委員　多少てにをはが違っていても一覧をあげられるようになるとよい。そこから絞り込めばいい。

館長　あまりにもヒットしすぎても困るが、現システムの検索にさまざまな改善の余地があるのは確か。利用者からの声として業者に要望を挙げた方が届くかもしれない。利用者から見たシステムの使用感は、サービス面にも直結してくるのでなんとかしていきたいと思う。気付いた点はどんどん言って欲しい。

会長　どこまでできるかという話もあるが、要望をきいてもらえればありがたい。

会長　駅の返却用ブックポストについて、挿入口にビニールがついているのはなぜか。

館長　飲食のゴミを入れる人がいるため、若干入れにくくしている。他自治体でも同様の事例がある。

委員　県立図書館でも問題になったことがある。県内で聞いた話では意図的で悪質な行為については、行為者の特定までして損害賠償を求めたこともあるそうだ。

館長　屋外設置のブックポストはそういったリスクを織り込み済みで設置している。ただ性善説に基づいて運用しているものになるため、こうした対応には苦慮する。

委員　そうした行為は犯罪にはならないのか。

館長　むろん犯罪になる。ただ人を特定するにはコストもかかる。

会長　他の事業方針について何かあるか。

委員　中学生や小学生の見学はあるか

館長　小学校2校ほどと、近年連携を深めている野洲養護学校が見学にきている。
中学は3校全ての職場体験を受け入れている。資料②の裏面、「学校との連携」に簡単に書いているので参照願いたい。

委員　一日図書館員というのはまた違うものか。

館長　夏休みのイベント的に楽しく体験してもらうもので、少し違うものになる。

会長　資料④について説明を

館長　野洲市の政策提案型事業ということで、各課から提案し、審査を通過すれば、まず3年間実施してみるというもので、これに図書館側から手を挙げて採用された。
この事業については、市長の方針として、子育てをする若者に選ばれる街、また高齢者が安心して暮らせる街といったところが大きな柱になっていたため、子どもの現場に本を届けるということと、来館困難な高齢者に向けてスポット的に運行したいと訴えて採用された。市の重点事業の一つにも取り上げられ、新聞でも予算編成記事の中で取り上げられた。調達予定の車両は、昔ながらの大きなバスタイプではなく軽トラ。コスト面において、提案事業としてあまりに高額だと認められにくいため、コストを下げる必要があった。また、マンパワーとして、バス型は専属のドライバーが必要だが、軽トラ型ならば図書館司書が自ら運転して運行できる。あとは、小さな在所の狭い道路でも通れるものということから。近年では軽トラ型を導入す

るところも増えている。積載規模はおよそ 500 冊程度。現在アルプラで行っている移動図書館に持っていっている数がそれくらい。規模としてはそれくらいを想像してもらったらよい。学校や園に行く場合には子供向けのみの本、地域に行く場合は一般書に子ども向けも若干入れてという形で、目的地に合わせて内容を入れ替える必要がある。小学校はなるべく全部行きたいが、園、こども園などは、細かな点がつめられていないので不明。保護者のお迎えのタイミングか、子どもたちが自身で貸出できる別のタイミングがよいかは検討の必要がある。あと地域はどこの地域を選定するかが一番大きな課題。近江八幡市はコミセンを回る形だが、野洲市の場合、コミセン立地があまりよくない。在所から離れていたり、別の拠点の近所であったり、集合団地から遠いなど、さまざまな問題がある。要望はたくさん入るだろうと思うが、全て行けるわけではない。選定は慎重に行いたい。また、地域だけでなく、高齢者ということであればデイサービス、障がい者になれば作業所なども視野に入ってくる。小さい移動図書館1台では限界もある。今後、1年かけて調整を進める。愛称の募集はするつもり。気運をもりあげるためにも有効。最終の選定はまた協議会で行っていただくことになると思う。車両の調達は4月に入札し業者決定するが、改造期間もあって納品までに9-10ヶ月はかかる。お披露目は年明けになる。春にかけて各ステーションへの運行確認、お披露目会、スポット運行でイベント出店など、そういった方向で事業を進めたい。職員の仕事量が膨大になるのも不安要素だが、楽しい業務でもあるので、上手にすすめていけたらと思っている。

会長　質問はあるか。

委員　予算のなかで、移動図書館は「まちづくり基金」があてられるのか

館長　車両代については、宝くじの「コミュニティ助成」の方にエントリーしているので、それが採用されればそちらから 560 万くらいの費用が出る。不採用なら「まちづくり基金」があてられる。

委員　本は移動図書館専用として購入するのか。

館長　ここの運用もこれから考えていく。
積載 500 冊しかないので、その積載分は厳選しないと使ってもらえなくなる。通常購入のものも交えてということになると思うが、人気が高いものは別立てで購入し、一般へは回さない運用にするなど、状況を見て選定していくことになる。

委員　予約本の受け取りはできるのか

館長　出来ればよいと思うが検討中。次の配送まで1カ月あるとなると、用意できた予約本を1カ月間置いておくケースが出てくる。予約多数の本だとこの期間の利用が止まってしまう。一週間前に依頼があって用意できたというケースであれば、持っていくのは問題ないと思うが。さまざまなケースが考えられるため難しいが、なるべく利便性はあげていきたい。

委員　楽しいラッピングにしてもらえたらと思う。 栗東は“あべ弘士さん”のライオンの絵、近江八幡は“はやしますみさん”の絵など、絵本作家にデザインを依頼している。子どもたちにも親しみをもてるようなものを期待する。

委員　コストもかかるかと思うが。

館長　正攻法でいくとコストがかかるのは間違いない。

委員　栗東は市のライオンズクラブから経費が出たと聞いている。

館長　どこもそれぞれご縁があってそうした形で依頼できたということがある。当市もいろいろ検討を進めている。

会長　移動図書館は何人で回る予定か。

館長　おそらく2人。いそがしいところには増援も必要かと思うが、やってみなければわからないところもある。

会長　一か所につき、だいたい1カ月に1回まわるということか。

館長　そのように想定している。

委員　現在アルプラザ野洲でやっているもの（アルプラザ BM）とは、また違ったものになるのか。

館長　違うが、持っていく冊数の規模は同等であり、それを車に変えるかどうかは検討になる。アルプラザ側とも検討調整が必要。

アルプラザ BM の場合は、イベント的にセントラルコートをお借りして図書館のプロモーションを兼ねた開催をしたり、移動図書館目的の利用者がついでに買い物もされるなど、互いに益のある関係のなかで進めている事業でもある。この関係性を維持できる方向で調整を進めたい。

委員　車両に広告のステッカーを貼るなどはできるのか。

館長　宝くじの助成が入った場合は必ずその旨の掲示が必要。荷台は楽しいラッピングを中心にしたいので、ドアのところになるかと思うが、ほかはあまり考えていない。調達費用が無いという状態であれば、企業からの寄付などを募って広告なども考えられたかと思うが。

委員　予算が厳しい中で、割と社会からの注目度も高く、話題性もあり、企業からも協賛を得やすい良いイメージの事業かと思うので、今後の資金繰りとして考えてもいいのではないか。

館長　当初企画段階では、企業からの出資も念頭にはあった。車は目途がたちそうなので、今後本代を出してくれると嬉しい。そうなれば広告を添付するなどを考えてもよいかと思う。行政の担当課にも何かあれば声をかけてもらえるよう、折に触れお願いしてみる。

委員　予算に本代も含まれているのか。

館長　科目は別だが含まれている。

車両代 590 万円のほかに、その書籍代 277 万円と、書庫を移動図書館用に改造する費用と、作業用のブックトラックなどの備品を購入する費用を全て合わせて、約 900 万円となる。

委員　広報は。

館長　まだしていない。いつ頃出すかはこれからの事業の準備が整ったタイミングでないと難しい。地域ステーションの選定と愛称公募のタイミングになるかと思う。事業が実際動き出すのは来年になる。

会長　運用の方向性を決めるのにワークショップはしないのか

館長　とりまとめの事務的負担が大きい。正直なところ余裕はない。

会長　より多くの意見もいれるべきでは。

ある意味、大きな宣伝になるので、今後の図書館運営やイメージの向上にも有効に活かしていくべき。

委員　アンケートはとらないのか。こういうかたちになるとよいなど。

館長　要望というかたちでとると、絶対に応えられないものもでてくるため、公平性をたもつのが難しい。まずは遠いところからというかたちが一番公平性を保てるかと思う。

会長　週に何回出ることをイメージしているのか。

館長　週4は難しい。週3回くらいか。午前、午後に分けて、どれだけ回れるかというところ。

学校対象となると時間帯なども難しい。基本はお昼休み。では、その前と後はどこに行くか。地域に出ると本の入替が必要になってしまう。学校を考慮せず、地域だけに特化するのであれば、いま少しやりようもあるが、学校や園を考慮すると、地域分としては月のうち2週間くらいしか確保できない。学校については、学校での読書活動の活性化という面から、学校図書館できちんと本を借りられる環境があっても、さらなる刺激として月1で図書館から本が来るというかたちを作っていきたい。

委員　学校図書館という課題が野洲にはある。移動図書館が来ているから学校図書館はこの状態でよいだろうとなってしまうと、学校図書館の整備と充実性に遅れが生じる恐れがあることを考えておく必要がある。学校を回るのならば、学校側がどう思うかは考えておかなければならない。整備がなされていない時期に行ってしまうとそこに甘えてしまう。逆に学校司書が行っているところに回ってもいいかもしれない。

館長　野洲市では、学校図書館の運営に関してボランティアさんに甘えてきたというこれまでの状況もある。その考え方をまず払拭していく必要もある。公が子どもの読書に対してまず責任を持つということと、学校司書が本の貸し借りだけではなく、探求学習のサポートや授業支援までやるというところを理解してもらわなければならない。移動図書館車の運行で、学校図書館を後退させるような失敗はしないようにしたい。

委員　車には音はでないのか。曲が流れると来た事がわかる。

館長　音は出るはずなので考えたい。

会長　図書館アンケートについては説明があるか

館長　まだ正式にまとまっていないので、本日のところはただ見ていただければ。
ただ、新しい本が欲しいなどの声はやはり多いので考えていきたい。今後、このアンケート内容も含めて評価していってほしい。

会長　本の満足度が下がっているというのも出ている。

館長　本年度からは相当厳しい選択をする必要もあるかもしれないが、また考えていく。
議会のなかで図書館関連質問が出た。特に移動図書館をどう進めていくのかという質問が多かった。今年度は準備、運行は令和9年度からになるが、教育長・教育部長から、そこに向けてしっかり準備を進めると答弁している。当方からお願いして移動図書館事業についてのイメージも合わせて発表してもらった。議員の方々から、かなりポジティブな、高い期待値のこもったご意見、または激励をいただいた。
学校司書についてもいくつかの質問があった。今後の配置と効果、方向性など。基本的には、子どもたちが図書室でいつでも本についての相談や会話ができる環境が生まれたことについて、学校司書配置校から喜びの声があるとの報告をしている。ただ今後の取組については改善の余地や課題がある。実際の活動の効果などは、また再来年の予算編成のなかで評価されていくものと思う。
また、議事録が出ると思うので見ていただければ。

会長　質問はあるか　→　なし
その他の資料について説明を

館長　新聞記事について
協議会委員 E 氏の新聞掲載があった。E 氏がこうしてさまざまに活動されている原点には 3.11 があったとのこと。
皆さまとも共有すべきかと、この機会にあげさせていただいた。

委員　前館長が湖南市甲西図書館におられた際に、3.11 の展示などを企画され協力した。この縁があり、前館長が野洲に移られたあともつながりがあった。千歳館長時代にも、福島の新聞を取寄せるなどの活動をしておられ、さまざまご縁はあったが、やはり 3.11 はひとつのきっかけであったのだと思う。
もともと「びわこ学園」で活動していたが、福島にも活動を広めたいと思い福島に帰っていた。その際に被災し、家族のこともあり滋賀に戻ってきた。もう15年もたったのかと感慨深い。

館長　その他の記事から、有識者会議について、今後、「図書館の望ましい基準」などの一番大本となる大事なと

ころについて改訂作業が進むと考えられ、その方向性を定めるというのが、この有識者会議の報告になる。また、この資料だけでは不十分かと思うので、ぜひホームページからでもチェックしていただきたい。

館長　来年度はかなり大事な年になるかと思う。またご協力を願う。

会長　事業も多いので、やはり計画は必要かと思う。その時その時の判断で進めるのは危険。

館長　今回、野洲市総合計画の中に図書館を少し載せられた。今後も市の行政の中にあって図書館とはこういうものという、ある程度可視化できるような取り組みは必要。これからも、何らかのかたちで行政の中に食い込んでいく必要はある。行政はどうしても理屈で進んでいくので、理屈的にその計画の下にこれらがくるのは妥当かといった視点でチェックされ、淘汰されてしまう。そこをどう突破するのか、今までの積み重ねが台無しにならないよう、慎重に進めていく必要があると思う。その中で図書館の事業を着実に進めていけるように頑張りたい。

会長　時間が少し早いので、この機会に聞いておきたいことなどあれば。

委員　学校の「図書館ボックス」の更新について、学校司書のこともあり、どのような方向性になるか。

館長　更新は必要だが予算がない。ボックスはコロナ禍の際におりた交付金をもとに、子どもたちの身近に本をというかたちで始めたもの。継続していくには既に本が古びている。その更新に力をいれるのか、学校図書館の整備に力をいれるのか、判断に迷うところではある。学校図書館にも相応に力を入れたいが、学校現場では、このボックスをかなり重宝してもらっている。どちらかの選択は難しい。

委員　もう循環は何巡かしているのか。

館長　一年のうちに 5･6 回まわってくる。学年があがれば、また別のシリーズになる。新しい本が2カ月に1回くらいは回ってくるという構造と考えると、それなりに機能はしていると思う。ただ、事業導入から数年たっているので、本の内容は古びてしまい、中学校などは特に見劣りする。

委員　流行りには敏感な世代。やはり新しい本は必要かと思う。

館長　学校図書館にも新しい本が入って使えることが大事。学校図書館の機能を改善することも大事。図書室を活用できるカリキュラムの組み方、意識の変革が必要。外部の公共図書館がモノ申してもなかなか動かないので、やはり司書が入って、なんとか機能させるところから崩していくしかない。

委員　県の「こども としょかん」サポートセンターという機関が、昨年度県立図書館に発足して、本年度から生涯学習課に移った。今年度からのメインとしては県下の小中学校を訪問して学校図書館への意識改革を図っていくという計画がある。特に中学校の意識改革ができればよい。3年のうちに全校を回る予定。昨年度は手をあげた学校が主だったと聞いている。手を挙げるのは意識が高い学校だけ。県の教育委員会事務局職員が行くのと地域の図書館職員が行くのとでは影響がだいぶ違う。

委員　学校図書館の有効活用がなかなか進まない。今、学校司書や支援員が入った学校図書館の状況を見ると、かなり新しい本がたくさん入っている。司書が入っていると選書が素晴らしい。そうして児童生徒がいつ来てもいいように待っているが、なかなか来ない。いかんせん、子どもたちも時間がないということもあるが、今までのオープンでない図書館のイメージもあるのかと思う。今は開放されている。教室に居づらい子たちの居場所にも十分なりうる。こうして教育委員会が動き出している。今後も前向きに進んでいくよう、またこの場に教育委員会の方も交えて、図書館と学校とが連携していくことで活字に触れる機会を増やすよう考えていってほしい。

館長　学校や教育委員会の意識改革も必要かもしれない。読書の価値について、すべての学びの基礎になるところという意識をもって、もう一度見直していければ。教育の土台なので、ここをもう少し頑張っていく方向に向かいたいが、なかなか全体の意識にはなりにくいのが大きな課題。ようやく今、学校司書が学校現場にじわじわと領域を広げているところなので、ここを支援しながら進めていきたい。聞くところでは、問題文が読めないために解けないなどの状況もあるとか。まずは文章をきちんと読めなければ話にならない。読書について、こうした利点があるなど、アピールの仕方も考えるべきなのかと思っている。

委員　素朴な疑問で申し訳ないが、学校図書館は自由にいける空間ではないのか。

委員　小学校はだいぶ開放されているが、中学校は通常は閉まっている。開放すると、中で悪いことをするのではという考えもある。

委員　そもそも学校図書館に人がついていないので、問題が起きてもわからない。

委員　これまでずっと学校図書館は閉まっていたので、そういうイメージがついてしまっている。教室に直接入る図書館ボックスは、図書館にわざわざいかなくても本があるので、先生としても楽でよい。子どもたちも決して本は嫌いではないから、ボックスの本は読まれている。だからといって、ボックスの更新に予算がついたから学校図書館には必要ないだろうとなってしまうと困る。やはり、学校図書館の充実が先。司書がその時の教科の参考になるような本を提示し、本を介して授業にも食い込んでいくことができれば、子どもたちもいろいろな本に興味を持てる。これから司書が増員されるとのことなので、活躍を期待している。

館長　学校図書館を使えるようにしていくことが肝要。先々は公立図書館とシステム上でもつながれば、必要な本も見つかりやすくなり、予約本が学校で受け取れるところまでできるようになると理想的。

委員　確かに学校図書館と公立図書館がシステム的につながっていないことも課題。今回のシステム変更ではそこまでは無理だと思うが。

館長　学校図書館の蔵書数はどうしても少ない。子どもたちにこれだけしか本がないと思われると利用しなくなる。予算さえあればシステム導入は可能だが、そうすれば現場にシステムを動かす人をつけなければいけない。その分の予算も必要となる。まずは人を付けて、人が居る環境が整ったら、次にこれぐらいの予算でこんなことが実現できますといった形で発展させていければと思う。ちなみに、有識者会議の方向性としては基本1校1人が望ましい。他の都道府県の配置を見ていても、基本は1校1人。

委員　1校1人フルタイムで放課後も開けられるのが望ましい。

館長　話はかわるが、図書館協議会委員として15年以上勤めていただいた方は、全国公共図書館協議会から表彰される。当協議会では、早川会長と松山副会長は該当すると思われるため、エントリーしようと思っている。ご承知おきいただきたい。

会長　では、これをもって令和7年度第3回の図書館協議会を閉会とする。

館長　次回は、令和8年度第1回。日程についてはまた調整予定。